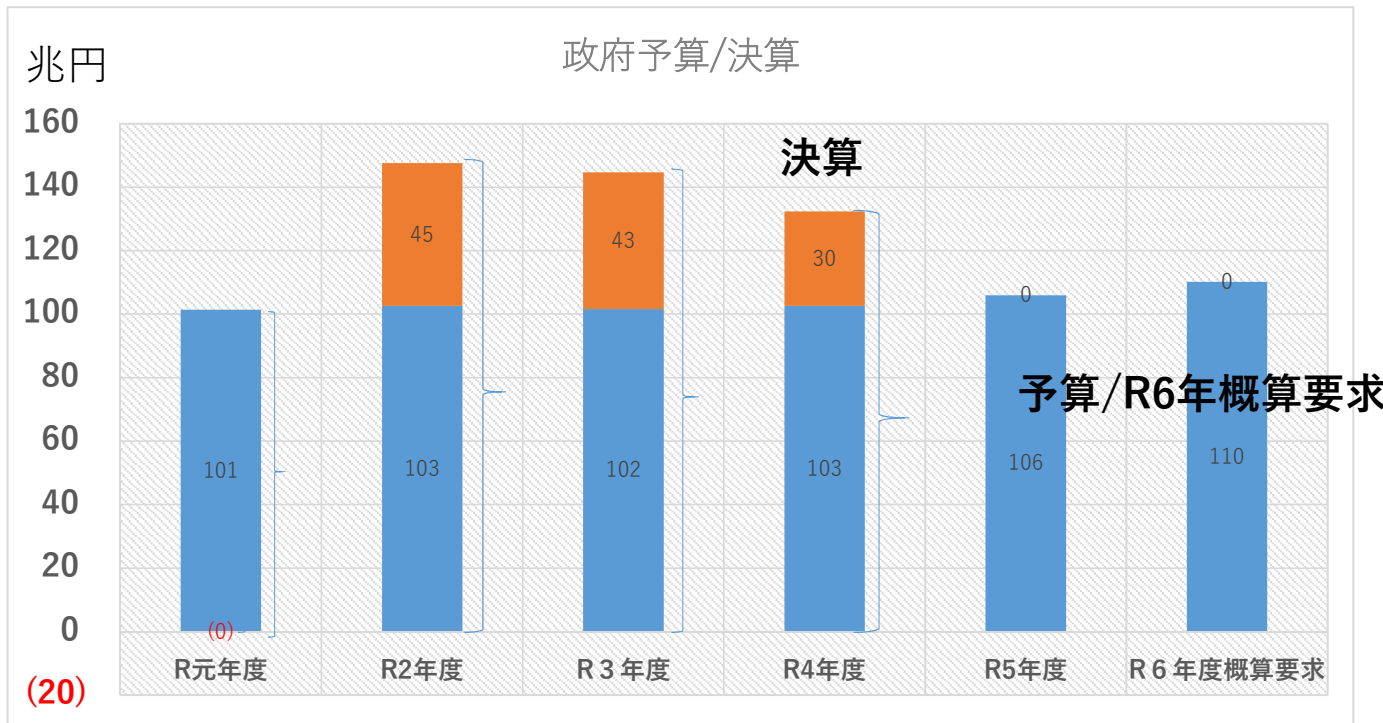


令和6年度予算概算要求

経済産業省・文部科学省 バイオ関連事業

2023年10月3日
日本バイオ産業人会議 次長 小平 邦彦

一般会計 政府予算/ 決算



予算は約100兆円から微増傾向

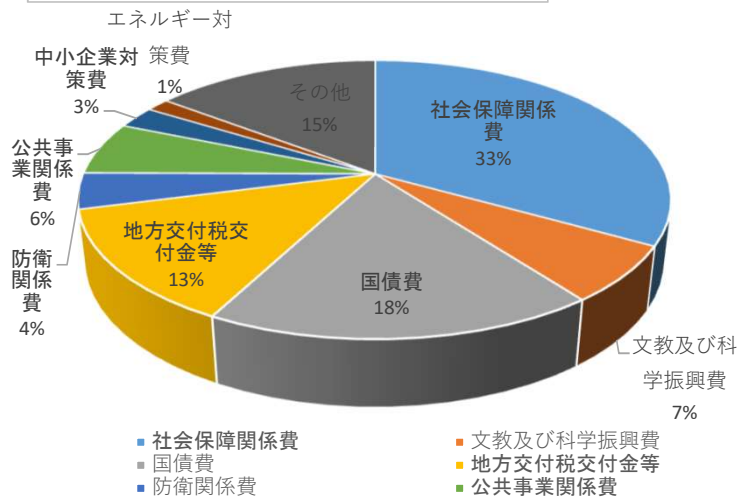
R2,3,4年度と大型補正により、決算額は大きくなる

R6年度概算要求は110兆円

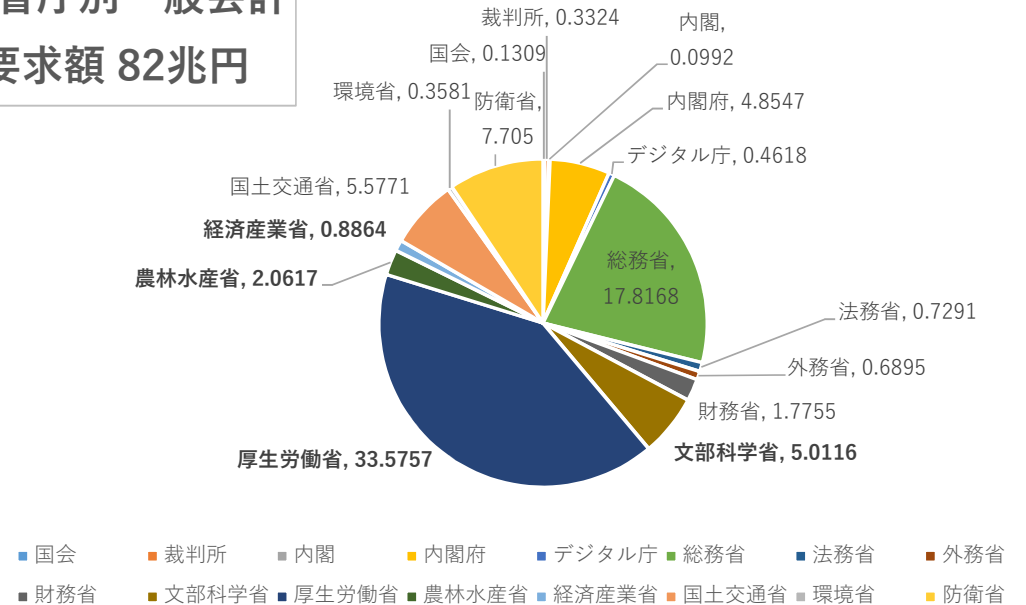
財務省データより: JABEX作成

一般会計 歳出/ R6年度 省庁別概算要求額

R4年度歳出内訳 132兆円



R6年度省庁別一般会計
概算要求額 82兆円



予算成立までの流れ

R6年度



各省各庁の概算要求
(R5年9月5日)



政府案



予算成立

R5年度

各省各庁の概算要求
(R4年9月5日)

政府案閣議決定
(R4年12月23日)

国会提出、審議開始
(R5年1月23日)

R5年度予算成立
(R5年3月28日)

R4年度第2次補正予算

R4年度第2次補正予算案
閣議決定
(R4年11月8日)

国会提出、審議開始
(R4年11月21日)
予算成立
(R4年12月2日)

	令和6年度 概算要求額	令和5年度 当初予算額
一般会計	4,286 億円	3,495 億円
うち、中小企業対策費	1,336 億円	1,090 億円
うち、科学技術振興費	1,510 億円	1,122 億円
うち、その他	1,439 億円	1,283 億円
エネルギー対策特別会計 ※GX 推進対策費を除く	7,820 億円	7,052 億円
うち、エネルギー需給勘定	6,100 億円	5,400 億円
うち、電源開発促進勘定	1,652 億円	1,604 億円
うち、原子力損害賠償支援勘定	69 億円	47 億円
GX 推進対策費	1 兆 985 億円 ※国庫債務負担行為等も 活用し、総額 1 兆 8691 億円の 投資促進策を新規要求	4,896 億円
特許特別会計	1,525 億円	1,454 億円
経済産業省関連合計	2 兆 4,615 億円	1 兆 6,896 億円

特別会計含め 2兆4,615億円
R5年比較 7,719億円増

GX推進対策費 6,089億円増

国内投資の拡大とイノベーションの加速を通じた新たな経済社会構造への転換(1) 世界をリードする先端分野への投資促進

- ① GXの実現とエネルギー安定供給の確保 【1兆6,241億円（1兆1,076億円）】
- ② デジタル社会の実現・生成AIへの対応 【1,591億円（366億円）】

(2) イノベーションの推進

- ① スタートアップ育成・新陳代謝の促進 【168億円（141億円）】
- ② イノベーションエコシステムの構築 【1,030億円（895億円）】

(3) 構造的課題への対応

- ① 人手不足への対応、賃上げ、人への投資 【66億円（65億円）】
- ② 地域の中堅、中小企業・小規模事業者の発展、投資環境の整備 【1,143億円（936億円）】
- ③ 物価上昇への対応、レジリエンス 【190億円（157億円）】

(4) 有志国連携による産業政策・経済安全保障

- ① 国際秩序の再構築に向けた取組 【336億円（298億円）】
- ② 経済安全保障の実現 【97億円（89億円）】

最重要課題：福島復興の更なる加速 【910億円（753億円）】

バイオ関連 令和6年度 経済産業省概算要求

(1) 世界をリードする先端分野への投資促進

① GXの実現とエネルギー安定供給の確保

○太陽光・風力・地熱・バイオマス・水力の最大限の導入促進

➢ GX分野のディープテック・スタートアップ支援事業【内407億円(新規)】(GX)

※国庫債務負担行為(5年)：2,034億円

○バイオものづくり

➢ 化石燃料のゼロ・エミッション化に向けた持続可能な航空燃料(SAF)・燃料アンモニア生産・利用技術開発事業【98億円(71億円)】(エネ特)

➢ カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発事業【31億円(26億円)】(エネ特)

② デジタル社会の実現・生成AIへの対応

○デジタル技術/PHR

➢ ヘルスケア産業基盤高度化推進事業【13億円(9億円)】

(2) イノベーションの推進

① スタートアップ育成・新陳代謝の促進

➢ 医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靱化事業【42億円(40億円)】

➢ 医工連携イノベーション推進事業【20億円(19億円)】

➢ 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業【18億円(14億円)】

② イノベーションエコシステムの構築

○バイオ分野等をはじめとした、若手研究者に対する支援や新産業・革新技術創出

➢ 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 AMED【57億円(53億円)】

➢ 再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業 AMED【41億円(37億円)】

○健康・医療などの分野で我が国の新しい技術・システムを世界に発信

➢ ヘルスケア産業国際展開推進事業【5億円(4億円)】

(4) 有志国連携による産業政策・経済安全保障

② 経済安全保障の実現

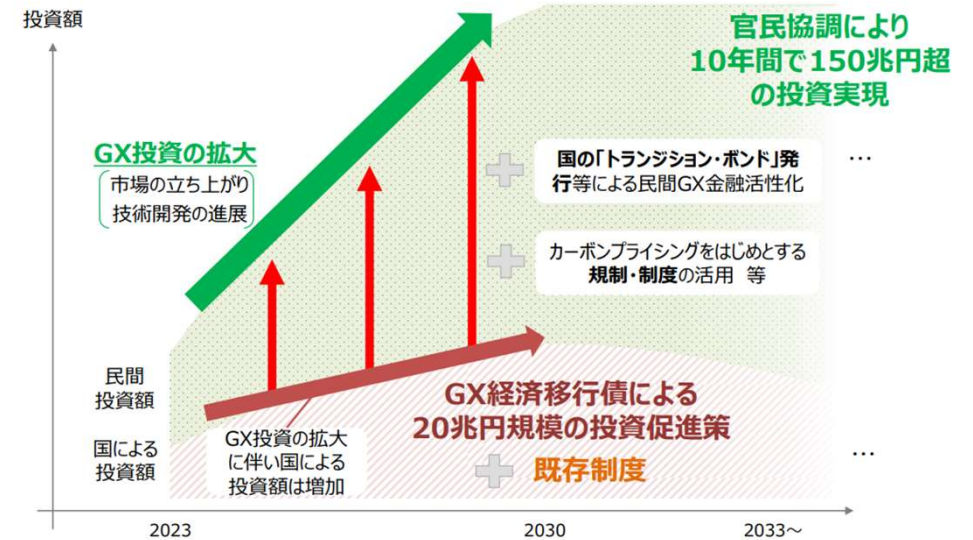
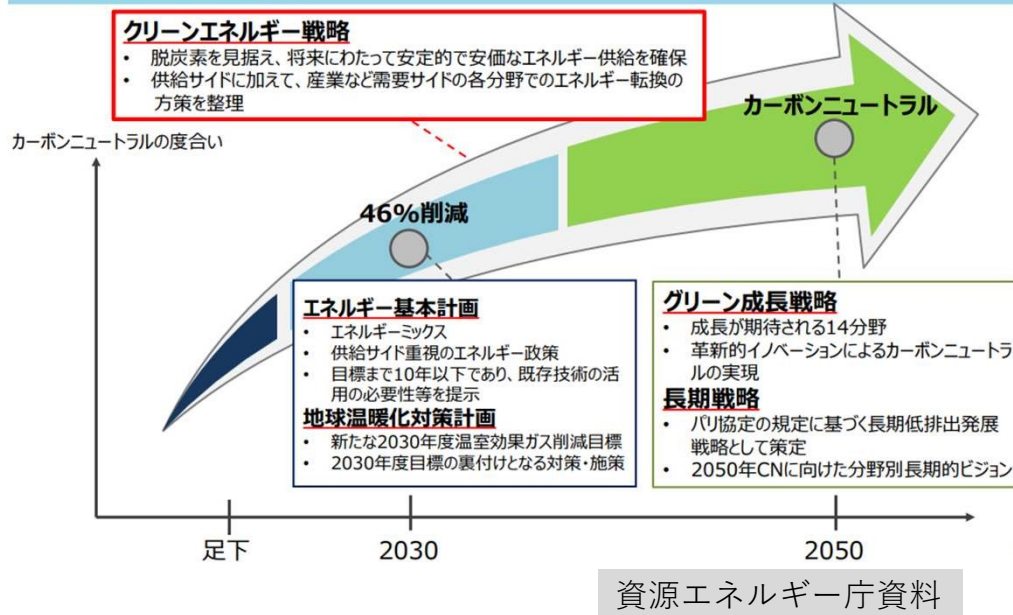
➢ 産学官連携によるサーキュラーエコノミー加速化事業【4億円(新規)】(エネ特)

バイオ関連予算 465億円

R5年度比 68%増 (188億円)

クリーンエネルギー戦略の位置づけ

- 2050年カーボンニュートラルや2030年度46%削減の実現を目指す中で、**将来にわたって安定的で安価なエネルギー供給を確保し、更なる経済成長につなげる**ため、「点」ではなく「線」で実現可能なパスを描く。



成長志向型カーボンプライシング構想：カーボンプライシングとGX経済移行債による投資促進策を効果的に組み合わせた構想で、**新技術の開発・社会実装を前倒しすることを目指す**。¹

GX経済移行債の発行：国が世界初のトランジション・ボンドを発行し、民間のトランジション・ファイナンスを強化することで、多排出産業等の脱炭素化を支援する。

GXリーグ・排出量取引市場の現状と今後の発展：企業自らが削減目標を設定し、創意工夫・イノベーションを促進する排出量取引市場であるGXリーグの活動状況と、今後の拡大方針を示す。

令和6年度GX関連概算要求（案）

- GX推進法によって、国による複数年度にわたるコミットと、炭素価格を踏まえた値差支援制度など、規制・制度と一体化した予算措置が可能になった。
- 複数年度にわたり、各国の制度・技術動向を見据えて、「総額2兆円超+事項要求」を内容とする、戦略的で予見可能性をもった予算要求を行う。

<国による複数年コミット※を基本とし、総額2兆円超（令和6年度：1.2兆円超）の投資促進策+事項要求>

※ 国庫債務負担行為等

研究開発

- ・先行実施として、約9,000億円規模の研究開発予算を措置済み。順次、実行中。
①水素還元製鉄・ペロブスカイト太陽電池の開発等に向けた「グリーンイノベーション基金」、②革新的GX技術創出事業（GteX）等

・高温ガス炉・高速炉（実証炉）の研究開発支援：3年で1,521億円（R6年度523億円）

・GX分野のディープテック・スタートアップ育成支援：5年で2,034億円（R6年度407億円）

・革新的脱炭素製品等の国内サプライチェーン構築支援：5年で1.2兆円規模（R6年度7,207億円）
例：水電解装置、蓄電池、H₂燃料太陽電池、洋上風力発電設備、パワー半導体等

・中小企業をはじめとする、非化石転換やダイヤモンド・リスボン対策を伴う先進的な省IT投資支援：5年で1,925億円（R6年度910億円）

・既存住宅の高断熱窓や高効率給湯器（ヒートポンプ等）の導入支援：1,484億円

・規制・制度と一体的に講じるEV、PHV、FCVの導入支援（トラック、バス等の事業者向け基礎充電設備を含む）：1,417億円
例：次世代自動車、トラック、バス、タクシー等

実装

市場拡大

GX市場

事項要求

※産業競争力強化・経済成長及び排出削減の効果が高いGXの促進

- ・排出削減が困難な産業の製造プロセス転換や資源循環投資（サーキュラーエコノミー）
- ・水素・アンモニアのサプライチェーン構築のための値差支援
- ・SAFの製造設備・原料サプライチェーン整備支援
- ・GX推進機構関連予算等



1. 歳出予算

(単位：億円)

	令和5年度 予算額	令和6年度 要求・要望額	比 △	較 減	増 額	備 考
一般会計	52,941	59,216			6,275	対前年度 11.9%増
エネルギー対策特別会計	1,086	1,444			358	対前年度 33.0%増

科学技術予算のポイント 1兆 1,859億円+事項要求 (9,780億円)
 ※エネルギー対策特別会計への繰入額1,439億円 (1,079億円) を含む

我が国の抜本的な研究力向上と優秀な人材の育成

科学技術・イノベーション人材の育成・確保 ⑤

- ・博士課程学生の処遇向上と研究環境確保 221億円 (36億円)
- ・国家戦略分野の若手研究者及び博士課程学生の育成 (次世代AI人材育成プログラム) 25億円 (新規)
- ・未来共創推進事業(日本科学未来館における展示・手法開発等) 43億円 (32億円)

基礎研究をはじめとする抜本的な研究力の向上

- ・科学研究費助成事業 (科研費) ⑤ 2,566億円 (2,377億円)
- ・戦略的創造研究推進事業 (新技術シーズ創出) ⑦ 470億円 (437億円)
- ・ムーンショット型研究開発制度 (核融合新目標含む) ⑧ 50億円 (30億円)

戦略的トップダウン型を含めた国際共同研究・頭脳循環 ⑨

- ・日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携 10億円 (新規)

Society 5.0を実現し未来を切り拓くイノベーション創出とそれを支える基盤の強化

世界と伍するスタートアップ・エコシステムの形成に向けたイノベーションの創出 ⑩

- ・大学発新産業創出プログラム (START) 27億円 (20億円)
- ・共創の場形成支援 148億円 (138億円)

世界最高水準の大型研究施設の整備・成果創出の促進 ⑪

- ・3 GeV高輝度放射光施設NanoTerasuの整備・共用等 38億円 (新規)
- ・SPring-8の高度化 (SPring-8- II) に関する取組 3億円 (新規)
- ・最先端大型研究施設の整備・共用 (SPring-8、J-PARC、SACLA、富岳) 478億円 (441億円)

※★が付く項目の他、科学技術関係の事項要求は、国土強靱化や総合的な国力の強化に対応する国立研究開発法人の施設・設備整備についても行う。

重点分野の研究開発の戦略的な推進

AI、量子技術、健康・医療、マテリアル等の国家戦略を踏まえた研究開発

- ・生成AIをはじめとするAI開発力の強化 238億円 (109億円)
- ・生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発 ⑫ 30億円 (新規)
- ・科学研究向け生成AIモデルの開発・共用 (TRIP-AGIS)⑬ 85億円 (新規)
- ・国家戦略分野の若手研究者及び博士課程学生の育成 ⑭ 25億円 (新規)
- ・(次世代AI人材育成プログラム) 【再掲】
- ・光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP) ⑮ 45億円 (42億円)
- ・脳科学研究の推進及び大学発医療系スタートアップ支援の強化 ⑯ 117億円 (61億円)
- ・マテリアルDXプラットフォーム実現のための取組 ⑰ 116億円 (78億円)

国民の安全・安心やフロンティアの開拓に資する課題解決型研究開発の推進

宇宙・航空分野の研究開発の推進 ⑱

- ・宇宙基本計画に基づく宇宙分野の研究開発 2,033億円★(1,527億円)
- ・打上げ能力の強化 (H3ロケット・イプシオンSロケット・将来宇宙輸送) 240億円 (106億円)
- ・アルテミス計画に向けた研究開発等 398億円 (167億円)
- ・JAXAの戦略的かつ弾力的な資金供給機能の強化 30億円 (新規)

海洋・極域分野の研究開発の推進 ⑲

- ・北極域研究船の建造を含む北極域研究等の推進 47億円 (45億円)

防災・減災分野の研究開発の推進 ⑳

- ・南海トラフ海底地震津波観測網 (N-net) の構築等 46億円 (12億円)
- ・改正活火山法に基づく火山調査研究推進本部の体制整備等 21億円 (7億円)

環境エネルギー分野の研究開発の推進 ㉑

- ・ITER計画・BA活動等の核融合研究開発の実施 【一部再掲】 292億円 (213億円)
- ・半導体創生拠点形成を含むカーボンニュートラルに資する研究開発 35億円 (19億円)

原子力分野の研究開発・安全確保対策等の推進 ㉒

- ・高温ガス炉や核燃料サイクルに係る革新的な研究開発 276億円 (107億円)
- ・医療用RIを含む原子力の多様な研究開発及びそれを支える人材育成 69億円 (52億円)
- ・「もんじゅ」サイトを活用した新たな試験研究炉 6億円 (5億円)

ムーンショット型研究開発制度

令和6年度要求・要望額 50億円
(前年度予算額) 30億円 文部科学省

背景・課題

- 未来社会を展望し、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待され、多くの人々を魅了するような斬新かつ挑戦的な目標を掲げ、国内外からトップ研究者の英知を結集し、関係府省庁が一体となって集中・重点的に挑戦的な研究開発を推進するムーンショット型研究開発制度を創設。
- ムーンショット型研究開発制度においては、「Human Well-being」（人々の幸福）を目指し、その基盤となる社会・環境・経済の諸課題を解決すべくムーンショット目標を設定し、挑戦的な研究を推進。
- 同制度では社会環境の変化に応じて目標を追加することとしており、カーボンニュートラルの実現に向けた取組の加速やロシアのウクライナ侵略による国際的なエネルギー情勢の変化等により、エネルギー・地球環境問題を同時に解決する次世代エネルギーとして期待されるフュージョンエネルギーが実現した将来像に向けた新たな目標を検討。また、毎年の研究開発を推進するために必要な経費を要求。

<政策文書等における記載>

【経済財政運営と改革の基本方針2023（令和5年6月16日閣議決定）】「AI、量子技術、健康・医療、フュージョンエネルギー、バイオものづくり分野において、官民連携による科学技術投資の抜本拡充を図り、科学技術立国を再興する。」
 「破壊的イノベーションの創出に向け、林立・複雑化した研究資金を不断に見直しつつ、基礎研究や、初期の失敗を許容し長期に成果を求める研究開発助成制度を、ステージゲート等の評価を着実に進めながら、更に充実・推進する。」
 【新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版(令和5年6月16日閣議決定)】「フュージョンエネルギー（核融合エネルギー）の利活用、AIや量子技術を始めとする先端科学技術を活用した農業・食料分野のイノベーション等、社会環境の変化に伴って出現する新たな課題に対応するため、ムーンショット型研究開発制度等の充実を図る。」

ムーンショット目標

※赤囲みが文部科学省・JST担当目標

- ★ 目標1：2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- ★ 目標2：2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
- ★ 目標3：2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- ★ 目標4：2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
- ★ 目標5：2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
- ★ 目標6：2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性汎用量子コンピュータを実現
- ★ 目標7：2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむための持続可能な医療・介護システムを実現
- ★ 目標8：2050年までに、激化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現
- ★ 目標9：2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

新たなムーンショット目標（フュージョンエネルギー）

“Moonshot for Human Well-being”
(人々の幸福に向けたムーンショット型研究開発)

(担当:(制度全体)科学技術・学術政策局研究開発戦略課戦略研究推進室(フュージョンエネルギー)研究開発局研究開発戦略官(核融合・原子力国際協力担当)付)

制度の枠組み



【資金の流れ】



【事業期間等】

- 平成30年度補正予算で800億円計上し基金を造成。令和3年度補正予算で680億円追加。
- 最長で10年間支援。



健康・医療分野の研究開発の推進

令和6年度要求・要望額 964億円
 (前年度予算額 848億円)
 ※運営費交付金中の推計額含む



(うちAMED要求・要望額 697億円 (前年度予算額 581億円) 文部科学省)

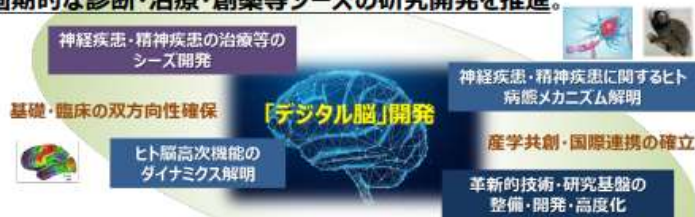
背景・概要

- 「経済財政運営と改革の基本方針2023」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023」(令和5年6月閣議決定)等に基づき、**脳神経科学に関する新たなプロジェクトの創設**、**高機能バイオ医薬品創出**や**バイオバンクの利活用促進**に向けた創薬研究の推進、**大学発医療系スタートアップへの支援強化**等を実施。
- この他、**再生・細胞医療・遺伝子治療研究**、**がん治療薬に繋がる革新的基礎研究**、**感染症研究**等を推進。

認知症治療等に資する脳科学研究の推進

○脳神経科学統合プログラム 93億円 (61億円)

基礎と臨床の連携やアカデミアと産業界の連携の強化により、これまでの革新技術・研究基盤の成果をさらに発展させ、脳のメカニズム解明等を進めるとともに、数理モデルの研究基盤(デジタル脳)を整備し、**認知症等の脳神経疾患の画期的な診断・治療・創薬等シーズの研究開発を推進**。



大学発医療系スタートアップへの支援強化

★橋渡し研究プログラム 82億円 (55億円)

橋渡し研究支援機関(文部科学大臣認定)を活用し、**専門的見地からの伴走支援**や**非臨床研究等に必要の費用の支援**等を通じ、**大学発医療系スタートアップを支援するプログラムを新設**。

がん研究の推進

○次世代がん医療加速化研究事業 39億円 (34億円)

免疫学や遺伝子工学、核医学などの多様な分野の先端技術を融合させることで、**革新的な医薬品の創生に資する基礎的研究を戦略的に推進**。

ゲノム創薬等の次世代創薬の推進

★スマートバイオ創薬等研究支援事業 19億円 (新規)

疾患応用研究と要素技術の組み合わせにより革新的なシーズ開発に繋げるとともに、**企業連携等の支援機能を強化し実用化を促進**することにより、**高機能バイオ医薬品等の創出を目指す**。

○ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム(B-cure) 54億円 (43億円)

バイオバンクの利活用を促進し、**革新的な創薬等につなげるため**、**バイオバンク自らが企業等と幅広く連携した社会実装のモデルとなる研究の実施**を推進。

研究開発プロジェクトの主な推進内容

○再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム 101億円 (92億円)

我が国発の基幹技術を活用した革新的な治療法の開発、**将来の商用製造を見据えた製造工程を意識した研究の推進**、**製造基盤整備等の強化**等を実施。

○新興・再興感染症研究基盤創生事業 30億円 (25億円)

国立感染症研究所、国立国際医療研究センター等と連携し、**モニタリング体制の基盤強化・充実**により、**政府全体の感染症インテリジェンス強化に貢献**。

【その他の主なプロジェクト】

- 生命科学・創薬研究支援基盤事業 44億円 (36億円)
- 医療機器等研究成果展開事業 12億円 (10億円)
- 革新的先端研究開発支援事業 112億円 (109億円)
- 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業 9億円 (10億円)
- ヒューマン・フロンティアサイエンスプログラム 18億円 (18億円)
- ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 0.5億円 (-)
- ナショナルバイオリソースプロジェクト 13億円 (13億円)

(担当：研究振興局ライフサイエンス課)

バイオ関連予算
964億円
 R5年度比 14%増
 (116億円)

内 AMED 697億円
 (前年581億円)



スマートバイオ創薬等研究支援事業

令和6年度要求・要望額 19億円（新規）

※令和5年度は先端的バイオ創薬等基盤技術開発事業（15億円）で実施

現状・課題

- 医薬品産業は急成長し、特にバイオ医薬品の割合が急拡大する中、諸外国の中で**我が国のバイオ医薬品市場のみがマイナス成長の予想**で、世界に後塵を拝している状況。世界の医薬品売上高上位100品目のうちバイオ医薬品は45品目だが、**我が国発はわずか2品目であり、競争力の低下が顕著**。
- これらの状況を踏まえ、「経済財政運営と改革の基本方針2023」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023」（令和5年6月閣議決定）等に基づき、これまで推進してきたバイオ創薬に向けた要素技術開発等に加え、**優れたシーズの研究開発を推進**するとともに、**成果を実用化等に確実に結び付ける**ことで、**我が国発の革新的な高機能バイオ医薬品の創出**を目指す。
- なお、バイオ医薬品の創薬研究支援を強化するための基盤整備については、生命科学・創薬研究基盤事業の研究支援を得て進める。

革新的バイオ創薬支援
3年目に企業連携
(ステージゲート)

事業内容

事業実施期間

令和6年度～令和10年度

○ 革新的バイオ創薬を目指した研究への支援

- ・ 要素技術の組み合わせによるモダリティの高機能化など、革新的な創薬シーズを生み出す研究を支援
- ・ 疾患応用研究と要素技術を組み合わせた研究を推進

○ 支援機能の強化

- ・ 研究開発の早期段階からの企業の参画・連携を促進
- ・ 知財戦略や企業連携等に関する伴走支援機能の強化



早期の企業連携推奨

ステージゲート評価
(企業連携必須)

- ✓ 3つの課題枠で研究開発課題を公募
- ✓ 研究期間は5年間（3年目にステージゲート評価を実施）
- ✓ 研究早期からの企業連携を推奨し、実用化の確度を高める

複合型研究課題

要素技術の組み合わせによる
モダリティの高機能化



(研究例)

薬剤送達技術の組み合わせによるペプチド・核酸医薬の開発
低分子化合物等を結合・封入したペプチド・細胞といったモダリティの複合化

疾患応用研究課題

疾患応用研究を組み合わせた
革新的シーズの創出



(研究例)

特定組織移行性抗体による難治性疾患治療薬の創出
疾患研究を通じて見出された標的配列に対する核酸医薬の創出

萌芽的研究課題

研究者の発掘・育成を目指し、若手研究者に限定した応募枠を設置

支援班課題

研究者を伴走支援する支援班を公募



バイオ分野の知財戦略や企業連携、薬事等の専門家が各研究課題を伴走支援





橋渡し研究プログラム

令和6年度要求・要望額
(前年度予算額)

82億円
55億円)

現状・課題

事業実施期間 令和3年度～

- 橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）を通じ、アカデミア等の優れた基礎研究の成果を臨床研究・実用化へ効率的に橋渡しできる体制を構築。機関内外のシーズの積極的支援、厚生労働大臣の承認による臨床研究中核病院との緊密な連携、産学連携の強化を通じて革新的な医薬品・医療機器等の創出に貢献。
- 令和6年度は、**医師主導治験や企業導出に向けたシーズの発掘・育成支援を引き続き実施**するとともに、「経済財政運営と改革の基本方針2023」、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023」（令和5年6月閣議決定）等に基づき、革新的な医薬品・医療機器等の開発に欠かせない存在である**大学発医療系スタートアップ起業のための専門的見地からの伴走支援や非臨床研究等に必要な費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施するプログラム**を新設。

82億円に増額

スタートアップ支援

橋渡し研究支援プログラム

医師主導治験や企業導出に向けたシーズの発掘、育成支援を実施。

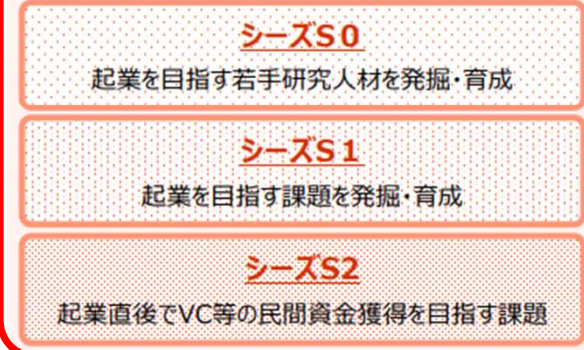


橋渡し研究支援機関：

医薬品や医療機器等の実用化支援に関する体制や実績等について一定の要件を満たす機関を「橋渡し研究支援機関」として文部科学大臣が認定

大学発医療系スタートアップ支援プログラム

橋渡し研究支援機関から選抜した機関に対し、大学発医療系スタートアップの起業に必要な専門的支援や関係業界との連携を行うためのスタートアップ体制整備費を支援。
起業前から、非臨床研究などに必要な資金を柔軟かつ機動的に支援。



【事業スキーム】



(担当：研究振興局ライフサイエンス課)

科学技術イノベーション・システムの構築

令和6年度要求・要望額 257億円
 (前年度予算額 239億円)
 ※運営費交付金中の推計額含む



文部科学省

背景・目的

新たな社会や経済への変革が世界的に進む中、デジタル技術も活用しつつ、未来を先導するイノベーション・エコシステムの維持・強化が不可欠。特に、我が国全体の研究力の底上げを図るためには、令和5年2月に改訂された「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」も踏まえ、全国に存在する様々な機能を担う多様な大学が、戦略的な経営の展開を通じて自身の強みや特色を発揮し、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップが実現できる環境を整備することが求められている。また、新しい資本主義の実現に向けて策定された、経済成長や社会課題解決の鍵となる「スタートアップ育成5か年計画」の実現に向けて、政府全体で大規模なスタートアップの創出に取り組む一環として、大学発スタートアップの創出やその基盤となる人材育成の強化に取り組む。

地域中核・特色ある研究大学の強化

195百万円 (181百万円)

▶ 「知と人材の集積拠点」である多様な大学の力を最大限活用して社会変革を推進していくため、地域の中核となる大学のミッション・ビジョンに基づく戦略的運営に向けて、強み・特色を活かした核となる先端的な取組の形成を支援。

- ・地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 195百万円 (181百万円)
- ※別途令和4年度第2次補正予算により、地域中核研究大学等強化促進基金を措置 [149,836百万円]



大学を中心としたスタートアップ・エコシステム形成の推進

2,738百万円 (2,127百万円)

▶ 大学等発スタートアップの質と量の拡大に向けて、起業に挑戦しイノベーションを起こす人材育成の拡大や、メンターによる科学技術を活用した起業を目指す人材の発掘・育成など、大学を中心としたスタートアップ・エコシステムの形成を推進。

- ・大学発新産業創出プログラム (START) 2,658百万円 (2,039百万円)
- ・全国アントレプレナーシップ醸成促進事業 80百万円 (88百万円)
- ※別途令和4年度第2次補正予算により、大学発スタートアップ創出の抜本的強化の基金等を措置 [99,775百万円]



産学官連携による新たな価値共創の推進

22,777百万円 (21,571百万円)

▶ 企業の事業戦略に深く関わる大型共同研究の集中的マネジメント体制の構築、政策的重要性が高い領域や地方大学等の独自性や新規性のある産学官共創拠点の形成、全国の優れた技術シーズの発展段階に合わせた支援などにより、本格的産学官連携によるオープンイノベーションを推進。

- ・共創の場形成支援 14,822百万円 (13,751百万円)
- ・研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 5,665百万円 (4,964百万円)



(担当：科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課)